

報 告

看護基礎力の強化を意図した実習前シミュレーション演習の
実際と評価坪井恵梨果¹⁾・安森友香¹⁾・佐居由美²⁾¹⁾ 聖路加国際大学看護学部 ²⁾ 聖路加国際大学大学院看護学研究科

要約：多世代・多職種との交流経験不足を背景に、看護実習における学生のコミュニケーションスキルなどの看護基礎力の低下が課題となっている。本看護学部では、病棟実習実施にあたり、学生一人ひとりの対患者への看護基礎力の強化を意図したシミュレーション演習を行った。演習の対象学生は、初めて患者を受け持つ実習である「看護展開論実習」実施前の看護学部2年生等125名であり、演習内容には厚生労働省による、「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（2019年）」の項目を採用し、かつ昨年度の履修学生によるアンケート結果を反映させた。病棟実習後に行ったアンケート調査では、本シミュレーション演習によって「実践的な準備を行うことが出来た」と回答者全員が回答し、その理由として「実習で実際に役立った」などが挙げられていた。今後も実習への準備性を高める演習となるように内容の改善を図っていく。

（キーワード：看護学生、シミュレーション演習、看護実践力、基礎看護学実習）

Practice and Evaluation of Simulation Exercises to Strengthen Basic Nursing Skills for Patient
Care in Preparing a Nursing Practicum in a Hospital WardErika TSUBOI¹⁾ Yuka YASUMORI¹⁾ Yumi SAKYO²⁾¹⁾ St. Luke's International University, College of Nursing²⁾ St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

Abstract: Against a background of lack of experience in interacting with multiple generations and professions, a decline in basic nursing skills, such as the communication skills of students in nursing practice, has become an issue. The College of Nursing faculty conducted a simulation exercise to strengthen students' basic nursing skills for patient care prior to ward training for students. The simulation exercise was designed to improve the nursing skills of 125 sophomore nursing students in charge of patients for the first time in a fundamental nursing practicum. The content of the simulation exercise was based on the Ministry of Health, Labour and Welfare's "Technical Matters Related to Nurse Education and Attainment at Graduation (2019)" and it incorporated the results of a student survey conducted in the previous year. The post-ward training questionnaire, which is a subjective evaluation, revealed that all respondents felt that the simulation training prepared them well for the practical training. The primary reason for this was its usefulness in practical training. We will continue to improve the content of this training to make it more practical.

(Keywords: nursing student, simulation exercise, nursing practical skills, fundamental nursing practicum)

1. 緒言

看護学生の多世代、多職種（他分野）との交流経験の少なさや、コミュニケーションの希薄化が課題とされている¹⁾。そのような中、2019年の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、教育現場は大きく変化し、非対面でのコミュニケーションが可能な在宅学習が推奨された。そのため、多くの看護学生は高校生であった3年間において非対

面コミュニケーションの機会が多かったといえる。前述したように、以前から若者のコミュニケーションの希薄さが課題とされているがコロナ禍を経て、異なる年代の人々との対人関係構築がますます脆弱になった可能性があると考えられる。そこで本学では、看護学生が初めて患者と出会う場面を設定したシミュレーション演習を、「実習前シミュレーション演習」として企画した。本演習は病棟

実習への準備および学生の看護基礎力を高めることを意図し、病棟実習前の自己学習の一環として計画した。シミュレーション演習は、1つの事例に対して少人数グループの代表者が看護師役を担い、患者役に看護ケアを実施することが多い。看護学生役や患者役の役割がないグループメンバーは、評価者や観察者として演習に参加する。しかし、今回の実習前シミュレーション演習では、初めて1人の患者を受け持つ病棟実習を行う全学生を対象に、看護師役と患者役、評価者の3つの役割全てを経験する機会を提供した。学生一人ひとりの経験値を増やすことで、看護基礎力が強化され、実習への準備性が高まるという効果を意図した。本稿では、病棟実習を想定した実習前シミュレーション演習の実際と演習終了後と実習終了後に得られた Web アンケート結果を踏まえた評価について報告する。

2. 実習前シミュレーション演習実施の経緯

本学の学部2年生および学士編入3年生²⁾は、例年8月～9月にかけ、一人の患者を病棟で受け持ち、看護過程を展開することを学習能力目標とする「看護展開論実習：必須1単位（以下、展開論実習）」を履修する。

本科目では、実習への準備性を高めるため、実習室助手主導による「実習前シミュレーション演習」を実習前に導入している。実習前シミュレーション演習は、基礎看護技術論Ⅰやヘルスアセスメント方法論などの既習科目で習得した技術や知識をもとに展開論実習に向けた実践的な準備を行うことを目的としている。なお実習室助手とは、本学が2014年6月より学部生の自己学習支援を強化するために配置された教員であり、看護実習室に常駐し、学生の自主的な看護技術習得を支援している³⁾。本演習は、実習室助手が実習前の学生の自己学習支援を強化するための一環として計画し導入された。

3. 実習前シミュレーション演習の内容検討

3.1 2022年度に実施した実習前シミュレーション演習からの検討

3.1.1 2022年度実習前シミュレーション演習の概要

2022年度の実習前シミュレーション演習では、シミュレーションを複数事例用意した(表1)⁴⁾。各シミュレーションでは、少人数グループに分かれ、その中から代表者1, 2名が事例にあわせて実演を行った。「シミュレーション④ もしもシリーズ」では、「もしも血圧測定時に患者さんが長袖を着ていたら？」など、実習で学生が困るであろう場面を複数設定し演習を行った。またシミュレーション演習の他に、学生が自由に看護技術の練習をできる時間とラーニングアシスタントによる相談会を設けた。ラーニングアシスタントとは、上級生が既習科目の教授補助活動を下級生に行う制度であり、学習者の立場に近い支援が行えることが特徴で、本学では2017年度に制度化されている⁵⁾。

表1 2022年度の実習前シミュレーション演習⁴⁾

<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション① 看護師への挨拶 看護学生役代表1名 ・シミュレーション② 看護師への報告 看護学生役代表1名 ・シミュレーション③ 看護ケア 看護学生役代表1名 ・シミュレーション④ もしもシリーズ <p>[もしもシリーズで設定した場面]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 体格の大きい患者の血圧測定 ② 長袖着用の患者の血圧測定 ③ 座位の患者の呼吸数測定 ④ 呼吸・脈拍測定中の患者からの声かけ時の対応 ⑤ 挿入物の多い患者の体位変換 ⑥ 座位の患者の清拭 ⑦ 提案したケアが拒否された場合の対応 ⑧ 指導看護師が多忙な場合の報告方法・内容 <ul style="list-style-type: none"> ・自由練習時間、ラーニングアシスタントによる相談会 <p>[練習可能な看護技術]</p> <p>バイタルサインズ測定、陰部洗浄、口腔内・鼻腔内・気管切開部からの吸引、車椅子移乗、全身清拭</p>
--

3.1.2 2022年度実習前シミュレーション演習後に実施したアンケート結果からの演習内容検討

2022年度に実施した実習前シミュレーション演習後のアンケートより、活用できる事例として「呼吸数測定時に、患者が座っていたら？」と「呼吸と脈拍測定時に患者に話しかけられたら？」が上位に挙げられた。学生からの支持が高かったこと、展開論実習でも上記場面に遭遇することがお

表 2 厚生労働省「看護基礎教育検討会報告書」,
「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表 13-2
看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 (改正案)」⁶⁾からの抽出演習項目

項目	技術の種類	卒業時の到達度	
		演習	実習
1. 環境調整技術	1 快適な療養環境の整備	I	I
	8 膀胱留置カテーテルの管理	I	III
4. 活動・休息援助技術	13 車椅子での移送	I	I
	14 歩行・移動介助	I	I
	15 移乗介助	I	II
	16 体位変換・保持	I	I
5. 清潔・衣生活援助技術	19 足浴・手浴	I	I
	20 整容	I	I
	22 入浴・シャワー浴の介助	I	II
	23 陰部の保清	I	II
	24 清拭	I	II
6. 呼吸・循環を整える技術	29 体温調節の援助	I	I
	32 口腔内・鼻腔内吸引	II	III
10. 症状・生体機能管理技術	50 バイタルサインの測定	I	I
13. 安楽確保の技術	64 患者の誤認防止策の実施	I	I
	65 安全な療養環境の整備 (転倒・転落・外傷予防)	I	II
	69 安楽な体位の調整	I	II
	70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	I	II
	71 精神的安寧を保つためのケア	I	II

おいに考えられるため、内容を再考したうえで本年度も実施することとした。また、「自由に看護技術を練習する時間」も既習科目にて学習した看護技術の技術練習を目的とし継続して実施することとした。

3.2 2023 年度実習前シミュレーション演習の検討

3.2.1 厚生労働省「看護基礎教育検討会報告書」, 「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表 13-2 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 (改正案)」からの演習項目の抽出

学生の看護基礎力の強化を意図する実習前シミュレーション演習を策定するにあたり、厚生労働省の「看護基礎教育検討会報告書」,「看護師等

養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表 13-2 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 (改正案)」⁶⁾を参考とした。卒業時の到達度では、演習と実習のそれぞれにおける到達度を I～III の 3 段階で設定しており、「演習」では「モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる」が到達レベル I であり、「実習」での卒業時の到達レベル I は「(実習で) 単独で実施できる」である。今回は「演習」,「実習」の一方もしくは両方がレベル I に該当する項目に着目し (表 2), 実習室にて学生が実施可能であるものを選定した。なお、「口腔内・鼻腔内吸引」は到達レベル I として設定されていない (演習ではレベル II, 実習ではレベル III) が、看護技術を習得する既習の科目にお

いて、学生がモデル人形を対象に実施済みであり、習得済であるため実習前シミュレーション演習の内容に含めた。項目「10. 症状・生体機能管理技術」は演習 1 と演習 2 のバイタルサインズ測定に組み入れた。また、項目「1. 環境調整技術」、「4. 活動・休息援助技術」、「13. 安楽確保の技術」、「5. 清潔・衣生活援助技術」、「6. 呼吸・循環を整える技術（体温調節の援助）」は演習 3 の環境整備シミュレーション演習に取り入れた。さらに項目「5. 清潔・衣生活援助技術」、「6. 呼吸・循環を整える技術（口腔内・鼻腔内吸引）」は、自由練習時間に組み入れた。

2022 年度に実施した実習前シミュレーション演習のアンケート結果と厚生労働省「看護基礎教育検討会報告書」、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン 別表 13-2 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（改正案）」⁶⁾ から選定した項目より、本年度の実習前シミュレーション演習は以下の構成とした（表 3）。

表 3 2023 年度 実習前シミュレーション演習概要

<ul style="list-style-type: none"> ・演習 1 バイタルサインズ測定（学生同士で測定） ・演習 2 バイタルサインズ測定演習『こんなときどうする？』 シリーズ①「バイタルサインズ測定時に患者さんが車椅子に座っていたら？」 シリーズ②「呼吸・脈拍測定時に患者さんに話しかけられたら？」 シリーズ③「もしも患者さんの測定値が異常値だった場合、どのように患者さんに伝える？」 ・演習 3 環境整備シミュレーション ・演習 4 バイタルサインズ測定スキルチェック （教員によるスキルチェック） ・自由練習時間 自由な看護技術練習および展開論実習に向けた予習時間 [練習可能な看護技術] バイタルサインズ測定、陰部洗浄、口腔内・鼻腔内・気管切開部からの吸引、車椅子移乗、全身清拭、足浴、シャワー浴

3. 2. 2 2022 年度からの変更点

2022 年度の実習前シミュレーション演習ではグループ（7～13 名）の中から代表者 1 名が看護学生役になり、事例にあわせた実演を行った。しかし、今回は学生全員が看護学生役、患者役、

評価者の役割全てを担うことができるようにし、様々な視点に立つことができるようにした。例えば、演習 1～3 ではグループの最大人数を 2, 3 人とし、全員が 1 事例に対して看護学生役と患者役、評価者を行えるようにした。また、2022 年度はバイタルサインズ測定の手技に対して教員が個別にフィードバックを実施する演習はなかったが、本年度は演習 4 に導入した。演習 4 では学生がバイタルサインズを測定した後、その手技に対して教員が個別にフィードバックを提供することとした。教員から個別に指導やフィードバックを受けることで、自己のスキルを向上させる機会を持つことができるようにした。

4. 展開論実習 実習前シミュレーション演習の実際演習の具体的な内容について説明する。

4. 1 演習 1「バイタルサインズ測定」

演習 1「バイタルサインズ測定」では、バイタルサインズ（体温、脈拍、呼吸／酸素飽和度含む、血圧）を正確かつ速やかに測定できることを目標とした。学生同士でペアを組み、バイタルサインズを測定し、学生同士で評価表を用いて互いを評価した。最後に測定時のポイントを確認しながら復習を行った。

4. 2 演習 2「バイタルサインズ測定演習『こんなときどうする？』」

演習 2「バイタルサインズ測定演習『こんなときどうする？』」は、シリーズ①「バイタルサインズ測定時に患者さんが車椅子に座っていたら？」、シリーズ②「呼吸・脈拍測定時に患者さんに話しかけられたら？」、シリーズ③「もしも患者さんの測定値が異常値だった場合、どのように患者さんに伝える？」で構成されている。

シリーズ①「バイタルサインズ測定時に患者さんが車椅子に座っていたら？」では、学生同士でペアを組み、看護学生と患者役に分かれ演習を実施した。看護学生が、車椅子に座った患者役の学生のバイタルサインズを正面から測定した。既習科目の授業では、臥床状態の患者に対してバイタルサインズを測定する機会が多く、学生は患者の

左右どちらか一方から測定することになる。しかし、病棟実習でバイタルサインズを測定する際、患者がベッド上で仰臥位であるとは限らない。そのため患者が座位であることを想定し、正面から測定する機会を設けた。正面から測定する際の体温計の腋窩への差し込み方や血圧計の巻き方、腕の高さの調整方法（測定部位を心臓と同じ高さにする）、声掛けの仕方について、仰臥位との違いに焦点を当て、演習を実施した（図 1）。



図 1 車椅子の患者のバイタルサインズ測定
（掲載について被写体の承諾を得ている）

シリーズ②「呼吸・脈拍測定時に患者さんに話しかけられたら？」では、看護学生同士でペアを組み、看護学生と患者役に分かれ演習を実施した。看護学生が患者役の呼吸と脈拍を測定中に、患者役が看護学生に話しかけるように伝え、測定中の会話の難しさを体験できるようにした。呼吸と脈拍を正確に測定するためには、静かな環境で測定する必要がある。そのため、測定前に実施できる患者への声かけや、測定中に患者から話しかけられた際の対応方法もペア同士で考えられる構成とした。最後に全体で実施した声かけを共有し、振り返りを行った。

シリーズ③「もしも患者さんの測定値が異常値だった場合、どのように患者さんに伝える？」では、看護学生同士でペアを組み、看護学生と患者役に分かれ演習を実施した。患者設定を読み、看護学生が患者役の学生に対してバイタルサインズの異常値を伝える演習を行った。なお患者の性格は、「細かいことを気にする性格で不安が強い」

とし、発熱しているという設定にした。また実際の病棟実習でも収集できる情報を想定し、7時と13時のバイタルサインズの値を提示した。普段、学生同士のバイタルサインズ測定では測定結果が正常値であることが多く、異常値についてのフィードバックが行われることは少ない。そのため本演習では、異常値を患者に伝える際の配慮や、看護学生としての対応を患者に伝える練習を導入した。

4.3 演習 3「環境整備シミュレーション」

演習 3「環境整備シミュレーション」は、3人1組となり、実施者（看護学生）、患者役、評価者を輪番で行った。学生は、事前に配布された「演習 3 実施内容とそれぞれの役割（表 4）」に沿って演習を進めた。なお、厚生労働省「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」⁶から選定し、演習 3 に含めた項目も表 4 に示す。



図 2 演習 3 環境整備シミュレーション中の学生
（掲載について被写体の承諾を得ている）

演習 3 では、患者設定を設けた。患者設定は、脱水で入院し点滴治療を受けている 72 歳の女性とした。患者は膀胱留置カテーテルを挿入しており、歩行は長距離の場合、看護師による部分介助が必要である。また左上肢の麻痺があり、食事は右手で摂取可能だがときどき食器の移動などの介助が必要な状態とした。この状態の患者に対して、車椅子での検査室への搬送と、病室入室後の環境整備、および食事環境のセッティング（昼食前の設定）、食事の配膳を看護学生が実施することとした（図 2）。なお、演習を進めるにあたり、環

表 4 演習 3 実施内容とそれぞれの役割, および演習に含めた厚生労働省「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」⁶⁾からの抽出項目

場面	役割			演習に含めた厚生労働省「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」からの抽出項目
	看護学生 (実施者)	患者役	評価者	
1. 移送	患者役の学生を車椅子に乗せ, レントゲン検査に連れていく (ルート: エレベーターで大学 2 階に行き, 演習場所の地下 1 階に帰ってくる)。	車椅子に乗る。	チェックリストを見ながら患者のベッド, ベッド周りを環境整備が必要な状態にする (シーツのしわを作ったり, 床頭台の上を雑多な状態にしたりする)。	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な療養環境の整備 ・膀胱留置カテーテルの管理 ・車椅子での移送 ・移乗介助 ・歩行・移動介助
2. 帰室・環境整備・食事配膳	<p>①患者役の学生をベッドに戻す前に, 病床環境を整える。</p> <p>②患者役の学生をベッドに戻し, 環境整備, 食事環境のセッティングを行う。</p>	患者の気持ちになって受け答えを行う。	看護学生役と患者役の学生が帰室後, 看護学生役の環境整備を観察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・膀胱留置カテーテルの管理 ・歩行・移動介助 ・体位変換・保持 ・患者の誤認防止策の実施 ・安全な療養環境の整備 (転倒転落・外傷予防) ・安楽な体位の調整 ・安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア ・精神的安寧を保つためのケア
3. 評価	評価者から評価を受ける。	患者の気持ちになり, 良かった点および改善点を看護学生役に伝える。	チェックリストに則り, 評価を行う。	

環境整備チェックリストを用いた。環境整備チェックリストとは, 患者のベッドおよび病室の環境を安全に整備する際に確認すべき項目を列挙したものであり, 大項目と中項目, 小項目に分かれている。以下大項目を「」, 中項目を () と示す。ここでは小項目を省略とした。大項目と中項目はそれぞれ「移送 (移送前・移送後)」, 「病床環境 (ベッド)」, 「環境整備 (病室内・オーバーベッドテーブル・床頭台・安全面)」, 「食事環境の整備 (姿勢・オーバーベッドテーブル・配膳)」, 「コミュニケーション」である。評価者はチェックリストに沿って, 看護学生役が実施できた項目にチェックを入れ, 評価できる仕様にした。環境整備シミュレーションの最後に実施した全体での振り返りでは, 環境整備チェックリストを用いた解説に加え, 演習実施場所に未設置であるが, 病棟実習では扱うことの多い体動コールや離床マットの操作方法, オーバーベッドテーブルのロック方法について説明した。さらに, 病室環境を整備することの重要性を伝えるため, 環境整備の不備が原因で発生し

た事故事例を 1 例紹介した。

4.4 演習 4「バイタルサインズ測定スキルチェック」(教員によるスキルチェック)

演習 4「バイタルサインズ測定スキルチェック」(教員によるスキルチェック) では, 学生が体温, 脈拍, 呼吸 (酸素飽和度含む), 血圧を 8 分以内に測定する。測定後, 教員より「バイタルサインズ測定チェックリスト」を用いてフィードバックを実施した。なお脈拍は学生と教員が同時に測定し, 血圧はダブルステートを用いて測定した。バイタルサインズ測定を習得する科目では, バイタルサインズ測定をテストとして実施し, 合格や不合格の基準を設けているが, 本演習では合否の基準は設けず教員からのフィードバックのみとした。

4.5 自由練習時間

自由練習時間では, 既習科目にて学習した看護技術の技術練習ができるブースを複数設置した。

これらのブースでは、陰部洗浄、全身清拭、足浴、車椅子移乗、吸引、およびシャワー浴の技術を練習できるようにした。それぞれのブースには、実習病院で使用する物品のリストと写真を添付した資料を用意し、自由に閲覧できるようにした。さらに、陰部洗浄のブースでは、褥瘡予防として陰部や臀部に塗布する頻度が高い軟膏や、スキンケア用品が掲載された資料と実物を一部準備した。その他、実習前に必要な記録の事前作成や看護ケア時における観察項目、血液検査などの基準値を予習する時間を設けた。

5. 実習前シミュレーション演習のアンケート内容

実習前シミュレーション演習の参加者を対象に、実習前シミュレーション演習終了時と展開論実習終了後の2回、実習前シミュレーション演習の評価のために無記名の Web アンケートを実施した。実習前シミュレーション演習終了時の質問は全 21 問で、選択式が 12 問、自由記述が 9 問の構成とした。また、展開論実習終了後の質問は全 25 問で、選択式が 14 問、自由記述が 11 問の構成とした。倫理的配慮として、アンケートへの回答は無記名であり、結果を集計して公表することを明記して実施した。アンケートは、「実習前シミュレーション演習」全体の学びや目標到達度に関する項目と、各シミュレーション演習の満足度や学びについての内容とした。

6. 演習評価

実習前シミュレーション演習を評価するため、演習終了時と、展開論実習終了時の2回、実施者を対象に Web アンケートを行った。

演習終了後は、対象者 125 名中 112 名から回答があり、展開論実習終了後は 22 名から回答があった。

6.1 実習前シミュレーション演習後のアンケート結果

【演習 1 バイタルサインズ測定】、【演習 2 バイタルサインズ測定演習「こんなときどうする？」】、【演習 3 環境整備シミュレーション】、【演習 4 バイタルサインズ測定スキルチェック】の演習内容について、「とても良かった」、「良かった」、「ど

ちらともいえない」、「あまり良くなかった」、「良くなかった」という 5 択の質問に対し、全体の 90% の学生より「とても良かった」、「良かった」との回答が得られた。

【自己学習：病棟で行っているケア方法や物品の学び】の内容は「とても良かった (46.4%)」、「良かった (36.6%)」、「どちらともいえない (15.2%)」、「あまり良くなかった (0.9%)」、「良くなかった (0.9%)」との回答であった。「とても良かった」、「良かった」の理由については、「手技の練習だけではなく、先輩に話を聞いたり準備をしたりと有意義に時間を使えたため」との回答があった。「どちらともいえない」、「あまり良くなかった」の理由については、「(自由練習時間が) 間延びしてしまったので、全体的にもっと時間を詰めてやれたらよかったと思ったため」という回答があった (図 3)。

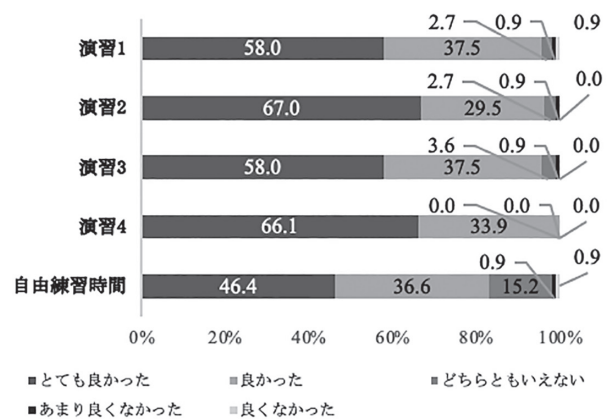


図 3 各シミュレーション演習後の満足度

「実習前シミュレーション演習に参加して良かったと思いますか?」という問いに対しては、「とてもそう思う (61.6%)」、「そう思う (33.0%)」、「どちらともいえない (2.7%)」、「あまり思わない (0.9%)」、「思わない (0.0%)」との回答があった。「とてもそう思う」、「そう思う」の理由としては、「毎日実施するバイタルサインズなどを基本に友達と一緒に復習することができたから」、「同じグループメンバーにも会うことができ情報を共有できる機会にもなったため」との回答があった。「どちらともいえない」、「あまり思わな

い」、「思わない」の理由としては、「スケジュールをもう少し詰めてもらえたら満足度が高かった」との回答があった (図 4)。

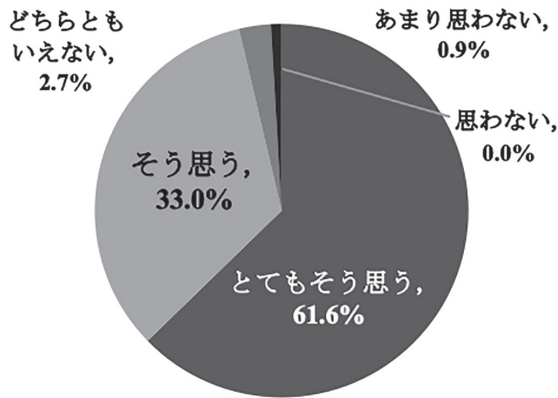


図 4 実習前シミュレーション演習の参加評価 (参加してよかったと思うか?)

「今回の演習全体を通して、展開論実習に向けた準備ができたと思いますか?」という問いに対しては、「とてもそう思う (45.5%)」、「そう思う (46.4%)」、「どちらともいえない (4.5%)」、「あまり思わない (3.6%)」、「思わない (0.0%)」と

の回答があった。回答の理由としては、表 5 のように分類した。実習前シミュレーション演習全般についての自由記述欄には 19 件の回答があり、「実習を前にして自分の看護技術に不安な気持ちがあったのでとてもありがたい機会でした」といった演習に対する感想が 7 件、時間配分や事前説明に関する要望が 12 件であった。要望に関しては、自由練習時間の延長や短縮、スケジュール事前告知期間について回答が得られた。

6.2 展開論実習後のアンケート結果

【演習 1 バイタルサインズ測定】、【演習 2 バイタルサインズ測定演習「こんなときどうする?」】、【演習 3 環境整備シミュレーション】の演習内容について、実習で「とても役立った」、「役立った」、「どちらともいえない」、「あまり役立たなかった」、「役立たなかった」という 5 択の質問に対し、全体の 90% の学生より「とても役立った」、「役立った」と回答が得られた。また、【演習 4 バイタルサインズ測定スキルチェック】では、全体の 80% の学生より「とても役立った」、「役立った」と回答が得られた。【自由練習時間：病棟で行っ

表 5 実習前シミュレーション演習の準備性についての回答理由：自由記述の分類 (斜体は実際の回答)

1. 既習科目で習得した技術の復習ができた (34 件) <i>直前で不安な時にもう一度各技術を復習できて良かったから。</i>	7. 学びを深めることができた (7 件) <i>自分で工夫しても思いつかなかった方法を学べたから。</i>
2. 練習する機会になった (13 件) <i>バイタルサインズを繰り返し練習することができたから。</i>	8. 準備として何をして良いか分からない (7 件) <i>担当する患者がどのようなプロフィールなのか不明のため、何を集中的に行えばいいのかイメージがつかない。</i>
3. 自分に不足している部分を知ることができた (12 件) <i>自分にまだ足りていない実習準備が何か知ることができたから。</i>	9. ラーニングアシスタントから実習に向けてのアドバイスをもらうことができた (5 件) <i>ラーニングアシスタントのお話を聞いたのが少し不安解消につながった。</i>
4. 不安を解消できた (9 件) <i>バイタルサインズを繰り返し練習することができたから。</i>	10. 同級生との交流の機会になった (4 件) <i>同じグループの人と会えるいい機会となったため。</i>
5. 実習に向けての気持ちの面、技術的な面で準備性が高まった (8 件) <i>自分で実施できる技術を練習でき、準備ができた。</i>	11. 病棟で実施されている手技を知ることができた (3 件) <i>陰部洗浄について、授業で習ったやり方ではなく石鹸を使わない方法を教えていただき病棟で実践したいと思った。</i>
6. 自信をつけることができた (7 件) <i>バイタルサインズの測定練習をする機会をいただいたので、安心して実習に挑めると思ったから。</i>	12. 疑問を解消することができた (2 件) <i>再度バイタルサインズ測定を練習することができたうえで、これまで疑問に思っていたバイタルサインズ測定時のさまざまな場合について知ることができ、とても勉強になったため。</i>

ているケア方法や物品の学び】は、実習で「とても役立つ (36.4%)」、「役立つ (50%)」、「どちらともいえない (4.5%)」、「あまり役に立たなかった (4.5%)」、「役に立たなかった (4.5%)」との回答であった。また【自由練習時間：既習科目での看護技術の練習】は、実習で「とても役立つ (45.5%)」、「役立つ (40.9%)」、「どちらともいえない (9.1%)」、「あまり役に立たなかった (0.0%)」、「役に立たなかった (4.5%)」との回答であった。「とても役立つ」「役立つ」の理由については、「実習で実際に実施することができたから」、「病棟でスムーズに実施できたから」という回答があった (図 5)。

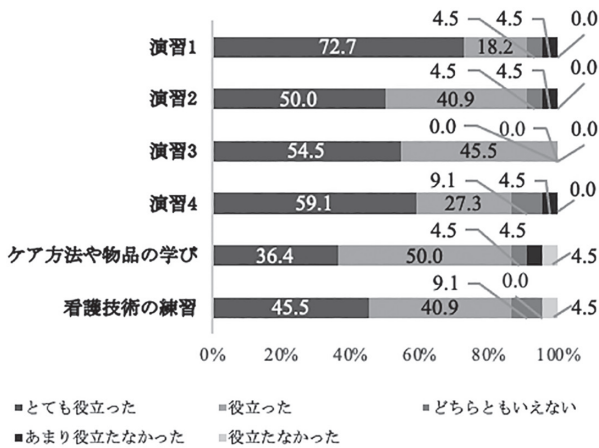


図 5 実習前シミュレーション演習の実習後の満足度

「展開論実習を終えて、実習前シミュレーション演習に参加して、良かったと思いますか？」という問いに対しては、「とてもそう思う (63.6%)」、「そう思う (31.8%)」、「どちらでもない (4.5%)」、「あまり思わない (0.0%)」、「思わない (0.0%)」との回答であった。「とてもそう思う」、「そう思う」の理由として、「事前に練習していたことで、実習で緊張せずに実施することができた」、「実習への心構えができた」、「夏休みから頭と気持ちの切り替えができた」という回答があった。

「展開論実習を終えて、実習前シミュレーション演習では、“実践的な準備を行う”ことが出来たと思いますか？」という問いに対しては、「とてもそう思う (59.1%)」、「そう思う (40.9%)」、「ど

ちらでもない (0.0%)」、「あまり思わない (0.0%)」、「思わない (0.0%)」との回答であった。「とてもそう思う」、「そう思う」の理由として、「実習で何が必要なのかわからなかったため、振り返ることができたから」、「実習前に準備することができたから」、「実習で実際に役立つため」という回答があった (図 6)。

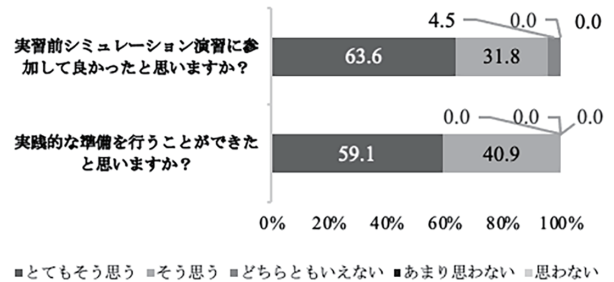


図 6 実習前シミュレーション演習の実習後の参加評価

「看護展開論実習で実施した項目を教えてください (複数回答可)」という問いに対しては、バイタルサインズ測定 (21 件)、患者の安全・安楽に配慮したベッド周りの観察 (16 件)、療養環境の整備 (16 件)、陰部洗浄 (12 件)、体位変換 (12 件)、全身清拭 (9 件)、シャワー浴 (6 件)、車椅子移乗 (6 件)、補助具を利用した体位変換や移動 (3 件)、吸引 (2 件)、足浴 (1 件)、聴診 (1 件)、車椅子移送介助 (1 件) という回答が得られた。

展開論実習を終えて、取り入れるとよい演習内容についての自由記述では、「情報収集の項目」、「肺音、心音の聴診」、「洗髪や整髪、入れ歯の扱い」といった、実習で実際に必要となった項目が挙がっていた。

7. 考察

7.1 実習前シミュレーション演習の準備性

実習前シミュレーション演習後に集計したアンケートの「今回の演習全体を通して、展開論実習に向けた準備ができたと思いますか？」という問いに対しては、「とてもそう思う (45.5%)」、「そう思う (46.4%)」との回答であった。一方で展開論実習を終えて、「実習前シミュレーション演習では、“実践的な準備を行う”ことが出来たと

思いますか?」という問いに対しては、「とてもそう思う (59.1%)」, 「そう思う (40.9%)」, との回答であった。また, 「展開論実習で実施した項目を教えてください (複数回答可)」という問いに対して抽出された項目 13 個のうち, 11 個は実習前シミュレーション演習内で取り扱っていた。

上記より実習前シミュレーション演習が病棟実習に役立ったという学生の主観に加え, 演習で実施した技術を病棟でも実際に実施していることより, 本演習が実習前の準備性を高める演習であったことが評価できる。

7.2 実習前シミュレーション演習がもたらした学生への効果

実習前シミュレーション演習後, および実習後に集計したアンケートでは, 演習 1~4 それぞれに対する評価として, 「とても良かった」, 「良かった」という意見が多数の回答を占めた。また演習終了後に実施したアンケートの「今回の演習全体を通して, 展開論実習に向けた準備ができたと思いますか?」という問いでは, 「とてもそう思う (45.5%)」, 「そう思う (46.4%)」が 90%以上であった。この理由として, 「既習科目で習得した技術の復習ができた」, 「練習する機会になった」, 「自分に不足している部分を知ることができた」といった肯定的な意見が多く挙げられた。これより, 実習前シミュレーション演習は学生に病棟実習に即した実践的な経験を提供し, 実習前の不安を解消する機会となったことが考えられる。また, 今年度は昨年度と異なり, それぞれの学生が看護学生, 患者役, 評価者としての役割を担い, 主体的に実習前シミュレーション演習に参加し, 互いを評価する機会があった。さらに, 演習 4 バイタルサインズ測定スキルチェック (教員によるスキルチェック) では, 学生が教員より個別にフィードバックを得られたことで, 自己の強みと改善点をより明確に認識し, スキルに対する自信が高まり, 実習に向けた意欲を向上させることができたのではないかと考えられる。先行研究でも, シミュレーション後に不安のスコアが減少し, 自信と看護ケア能力のスコアが増加することが示唆されている⁷⁾。

8. 結論

実習前シミュレーション演習は, 学生の実習前の不安を軽減し, 自己肯定感を向上させることにより, 展開論実習に向けた学生の準備性を高める効果があることが示唆された。また, 病棟実習で頻繁に遭遇するであろう状況を設定することで, 学生の患者対応に対する理解が深まり, 一対一の患者対応が想起された。実習前シミュレーション演習は, 学生が病棟実習で必要な知識とスキルを向上させる一助となる。

9. 今後の課題

実習前シミュレーション演習のアンケートにおいて, 実習後に得られた回答数が少なかったことが結果に影響したと考えられる。今後は実習後のアンケートへの回答を促進する機会を設けることが望ましい。

今回の実習前シミュレーション演習では, フィジカルイグザミネーションに関連した内容を取り扱わなかった。しかし, 病棟実習ではフィジカルイグザミネーションを実施したという回答が寄せられ, 学生からも練習を希望する意見があった。実習前シミュレーション演習で取り扱わなかったこれらの項目については, 次回取り入れることを検討する必要がある。

参考文献

- 1) 佐居由美 (2019) 「学生のコミュニケーション力をどう育むか」『聖路加看護学会誌』22 (2), 45-47.
- 2) 長松康子・佐居由美・五十嵐ゆかり・堀内成子 (2018) 「学士編入 2 年制コース開設に至るプロセス」『聖路加国際大学紀要』4, 98-102.
- 3) 荒木麻奈美・佐居由美・中田諭・馬場香里・賀教勝太・高妻美樹・桑原良子・森島久美子 (2020) 「看護実習室における実習室助手の支援の現状」『聖路加国際大学紀要』6, 103-106.
- 4) 緒方優・佐居由美 (2023) 「病棟実習に向けた実習前シミュレーション演習における看護学生の学びと演習評価—実施後アンケート結

果より一」『大学教育研究ジャーナル』20, 37-40.

- 5) 佐居由美・緒方優・高妻美樹・賀数勝太・中田諭・馬場香里・松本文奈 (2021) 「コロナ禍における看護学部ラーニングアシスタントによる学習者支援」『大学教育研究ジャーナル』18, 13-19.
- 6) 厚生労働省 (2019) 『看護基礎教育検討会報告』 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557405.pdf>) (最終アクセス日:2023年12月27日)
- 7) Rabia Khalaila (2014). Simulation in nursing education: An evaluation of students' outcomes at their first clinical practice combined with simulations. *Nurse Education Today*. 34(2), 252-258.

